



成人年齢とたばこに関するアンケート調査  
報告書

令和4年5月31日

国立研究開発法人 国立がん研究センター



## 成人年齢とたばこに関するアンケート調査

### 目次

<b>1. 調査の目的</b> .....	<b>2</b>
<b>2. 調査の概要</b> .....	<b>2</b>
<b>3. 調査結果</b> .....	<b>4</b>
(1) 18歳・19歳成人が喫煙を禁止されることの認知度について .....	4
(2) 20歳になったらたばこを吸ってみたいと思うか／思ったかについて .....	8
(3) 非喫煙者にたばこをすすめたいかについて .....	13
(4) 今後のたばこ対策について .....	16
(5) 周りのたばこの煙の不快感 .....	18
(6) 今後の受動喫煙対策 .....	20
(7) まとめ .....	22
<b>4. 参考資料</b> .....	<b>24</b>
(1) WHO2022年の世界禁煙デー・テーマ .....	24
(2) 厚生労働省 禁煙週間のテーマ .....	27

## 成人年齢とたばこに関するアンケート調査

### 1. 調査の目的

民法改正に伴い、2022年4月から成人年齢が20歳から18歳に引き下げられた。しかしながら、喫煙については、飲酒やギャンブルなどとともに、法改正前と同様に20歳のままとされている。

低年齢からの喫煙は、依存症を高め、また生涯の喫煙本数がおおくなることから健康リスクを高めることが明らかとなっていることも理由とされている。

こうしたことから、喫煙年齢とたばこについて、国民の認識や理解について、情報の収集を行うことを目的に調査を実施した。また、わが国のたばこ政策や受動喫煙対策への意識や、喫煙者の禁煙意向など、たばこ対策に関する国民の意識を喫煙者と非喫煙者とを比較できる形で把握し、今後の施策の参考にすることとした。

### 2. 調査の概要

(1) 実施期間： 令和4年4月22日(金)～4月27日(金)

(2) 実施方法： インターネット・アンケート調査  
(株式会社ネオマーケティングへ委託)

(3) 財源： 厚生労働省、国立がん研究センター委託事業費 たばこ情報収集・分析事業

(4) 回答者：

18歳以上の男女を対象に、成人年齢とたばこに関する意識や認識について調査を行った。

回答者の属性は、下記のとおり。20歳以上の2000人については、喫煙者、非喫煙者を各1000人とし、年代別の属性人口に応じた回答数となるようにした。

- 喫煙者 1000人
- 非喫煙者 1000人

人口統計および国民健康栄養調査の年代別の喫煙者割合をもとに、喫煙者および非喫煙者それぞれについて年代別の人口を推計し、人口に応じた割り付けを行った(表1)。18歳および19歳については、割当なく期間内の回答を全数回収した。回収数は、40人であった。

表1 年代別・喫煙状況別の回答者数

	男性			女性			男女
	喫煙	非喫煙	計	喫煙	非喫煙	計	合計
20代	91	56	147	26	65	91	238
30代	129	55	184	28	73	101	285
40代	183	67	250	50	93	143	393
50代	145	66	211	58	83	141	352
60代	129	61	190	37	84	121	311
70代以上	97	115	212	27	182	209	421
合計	774	420	1194	226	580	806	2000

なお、「インターネット調査」には、(1) インターネット画面上で回答する、(2) 調査対象が登録モニターである、という二つの特徴がある。前者は「測定誤差」、後者は「サンプリング・バイアス」の規定要因となり調査結果の誤差に影響を与える可能性があります。そこで委託先に、広範なカバレッジの中から確率的に回答者を集める方法が採られていること、モニターの募集、管理が適切になされ、質の確保がなされていることを確認している。

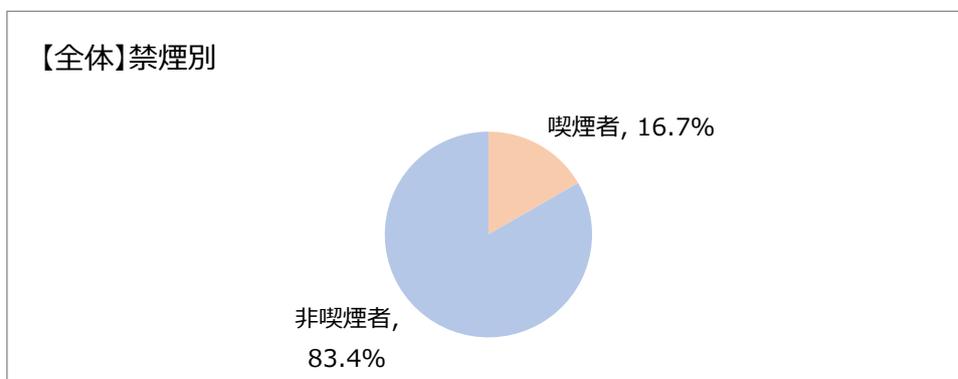


図1 喫煙率に応じた調整（ウイトバック）

サンプリング・バイアスに関しては、性別、年齢別、喫煙状況の比率を考慮した回収数とするとともに（表1）、全体に占める割合については、喫煙率に応じた調整（ウイトバック）を行い、わが国成人の喫煙状況の補正を行って、母集団構成比を復元した（図1）。

### 3. 調査結果

#### (1) 18歳・19歳成人が喫煙を禁止されることの認知度について

18歳・19歳の成人は、喫煙が禁止されることを知っていたか質問した。「知っていた」は68.6%であった。「あまりよく知らなかった」は16.1%、「知らなかった」は15.3%だった(図2)。

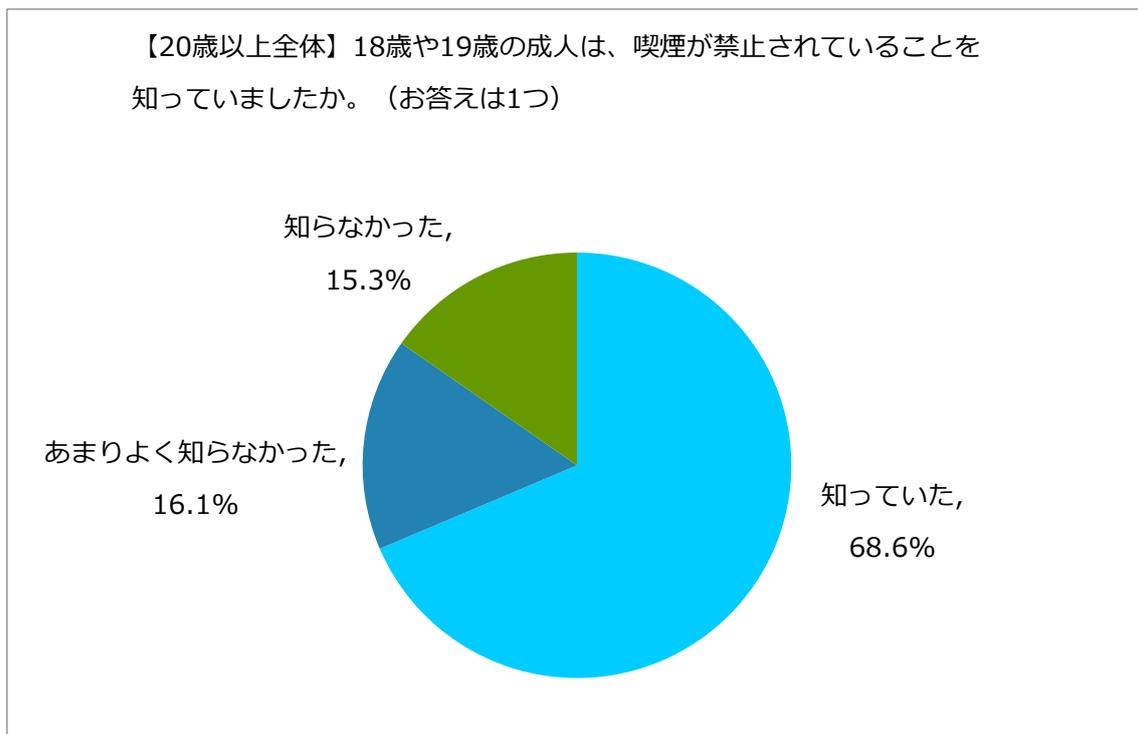


図2 【20歳以上全体】18歳・19歳成人が喫煙を禁止されることの認知度について(ウエイトバック)

なお、18歳および19歳(40名)では、喫煙が禁止されることを「知っていた」と回答した人は36人(90%)で、「あまりよく知らなかった」「知らなかった」はいずれも2名(5%)だった。

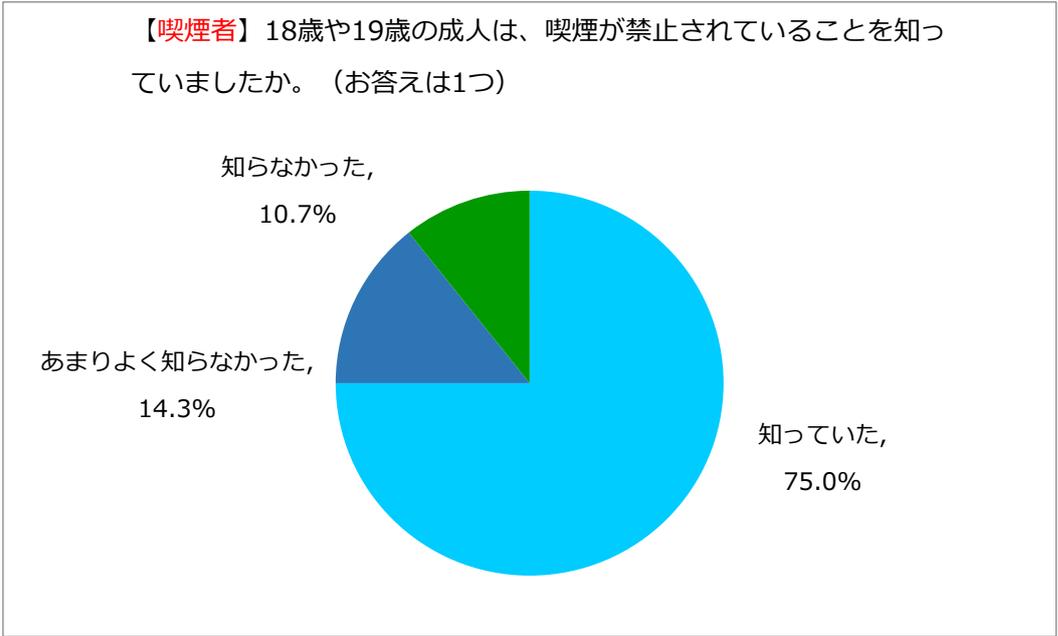


図3 【喫煙者】18歳・19歳成人が喫煙を禁止されることの認知度について

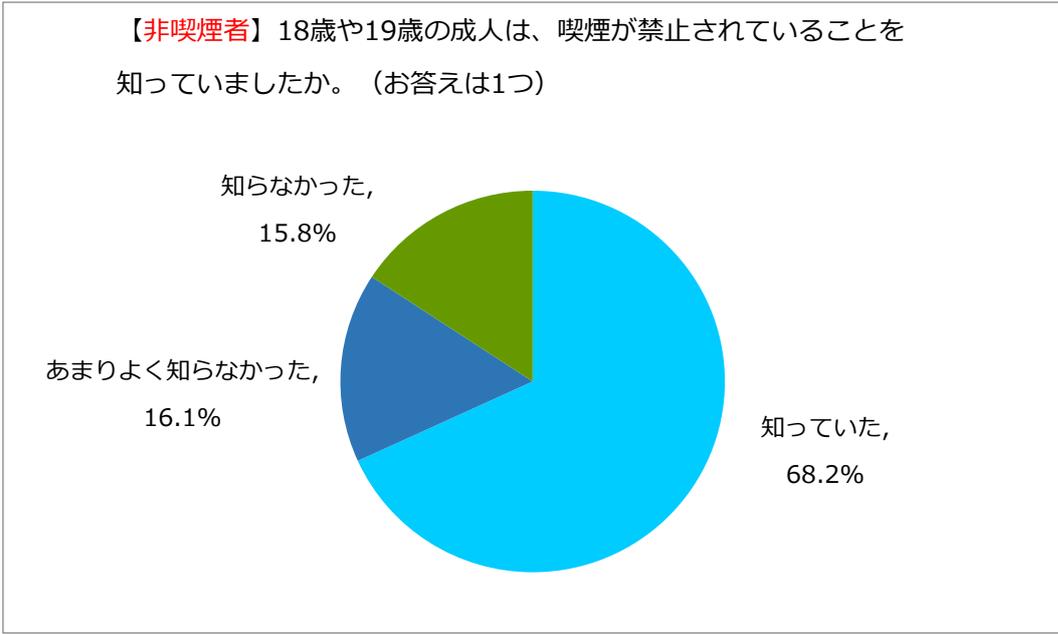


図4 【喫煙者】18歳・19歳成人が喫煙を禁止されることの認知度について

喫煙者では、「知っていた」が75.0%、「あまりよく知らなかった」が14.3%、「知らなかった」が10.7%であった。（図3）

非喫煙者では、「知っていた」が68.2%、「あまりよく知らなかった」が16.1%、「知らなかった」が15.8%であった。（図4）

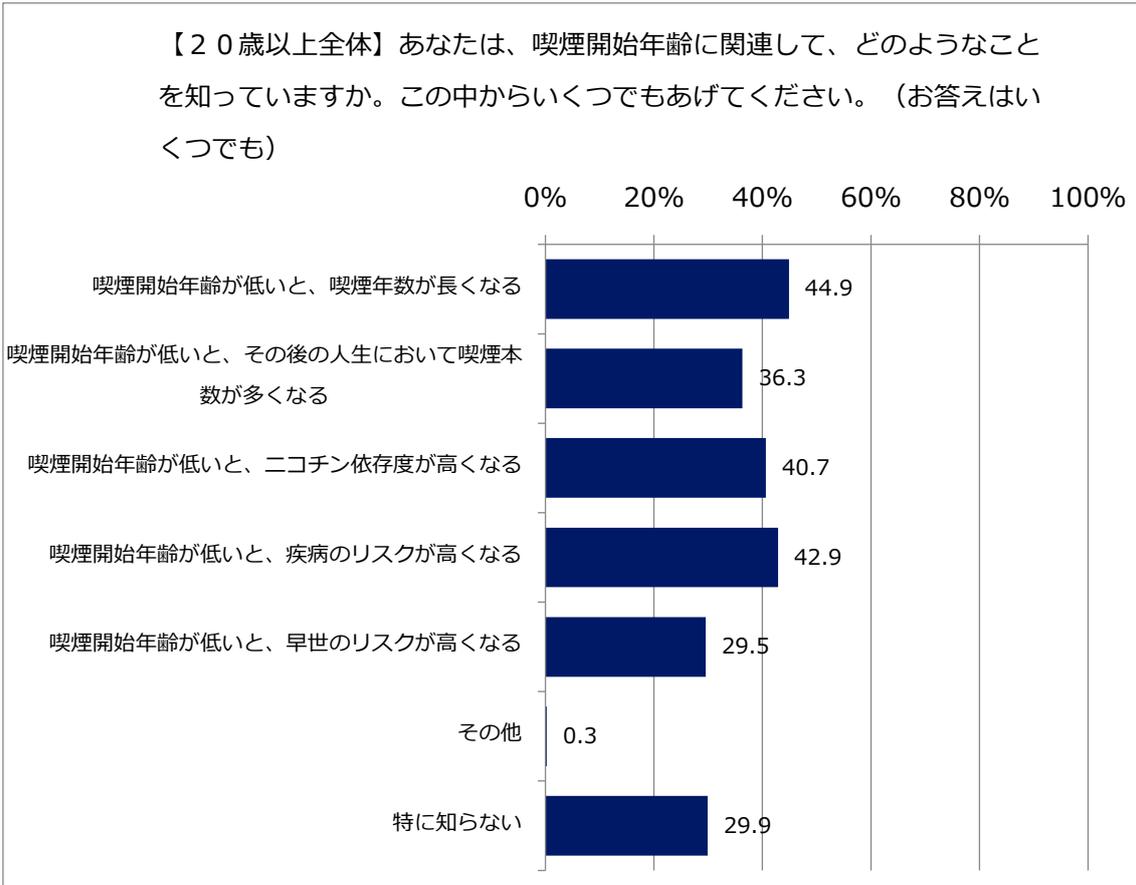


図4 【20歳以上全体】喫煙開始年齢に関連して、知っていること（ウエイトバック）

喫煙開始年齢に関連して知っていることを選択する質問を設けて、知識を伺ったところ、あまり知識が普及していないことがわかった。

いずれも喫煙開始年齢が低い場合の影響を挙げ、知っていることを選ぶ形式の質問であったが、最も多かった「喫煙開始年齢が低いと、喫煙年数が長くなる」でも 44.9%と、半分に満たない結果となった。続いて、「喫煙開始年齢が低いと、疾病のリスクが高くなる」が 42.9%、「喫煙開始年齢が低いと、ニコチン依存度が高くなる」が 40.7%、「喫煙開始年齢が低いと、その後の人生において喫煙本数が多くなる」が 36.3%、「喫煙開始年齢が低いと、早世のリスクが高くなる」29.5%の順であった。

また、「特に知らない」と回答した割合も 29.9%となっており、喫煙開始年齢が低いと健康リスクが大きくなることについては、必ずしも一般には認識が広まっているとは言えない結果となっていた。喫煙開始年齢と健康影響の関係について、特に若年者への普及啓発が重要な課題と言える。

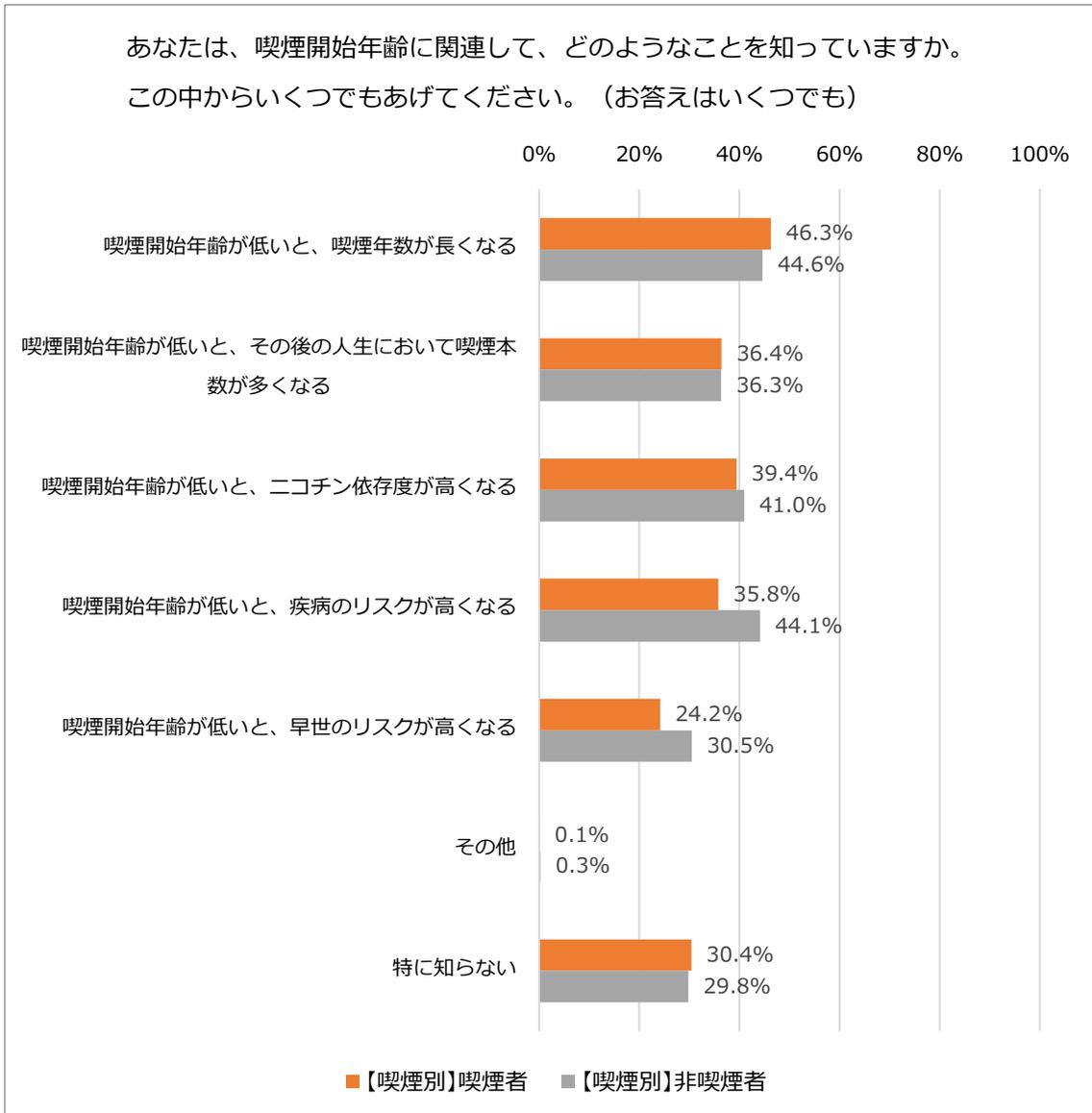


図5 【喫煙別】喫煙開始年齢に関連して、知っていること

喫煙別に比較すると、多くの項目で大きな認識の違いはなかったが、疾病と早世のリスク認識において差異がみられた。

特に、「喫煙開始年齢が低いと、疾病のリスクが高くなる」については、喫煙者が35.8%であるのに対し、非喫煙者は44.1%であった。また、「喫煙開始年齢が低いと、早世のリスクが高くなる」についても、喫煙者は24.2%、非喫煙者27.4%と、非喫煙者のリスク認識のほうが喫煙者を上回る結果となった。

(2) 20歳になったらたばこを吸ってみたいと思うか／思ったかについて

20歳になったらたばこを吸ってみたいと思うか／思ったかについて質問した。  
18歳・19歳成人 40名の中で、「20歳になったら、たばこを吸ってみたい」と回答した人は3人(7.5%)に過ぎなかった。逆に、「20歳になっても、たばこを吸いたとは思わない」が87.5%に達した(図6)。

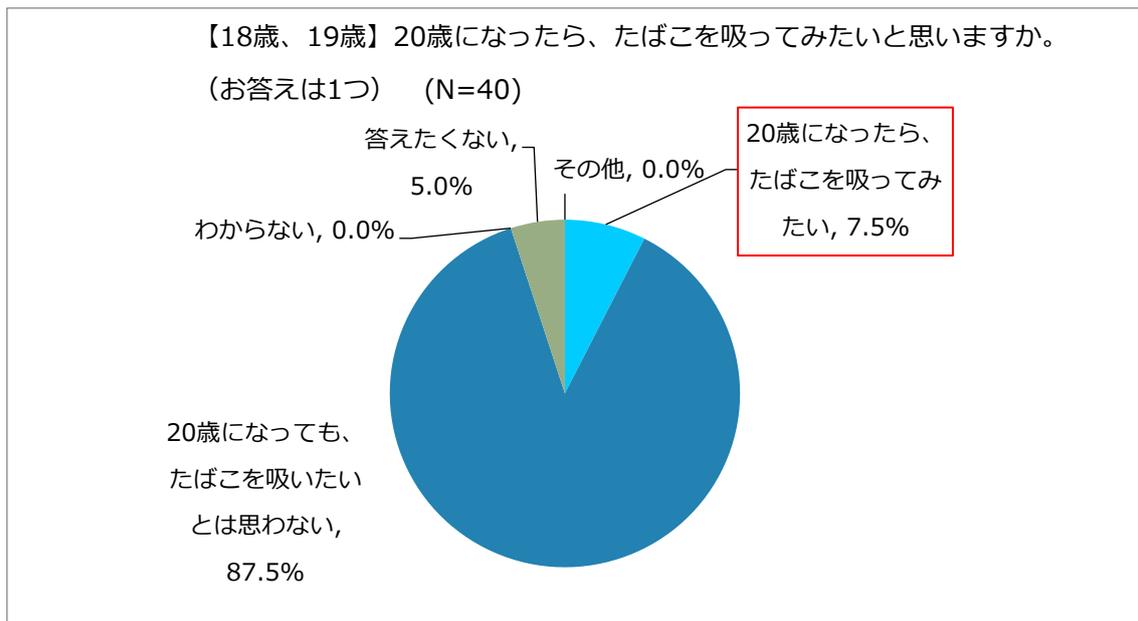


図6 【18歳・19歳】20歳になったらたばこを吸ってみたいと思うか

現在 20 歳以上の人では、20 歳になったときに、たばこを吸ってみたいと思ったか聞いたところ、全体では「20 歳になったとき、たばこを吸ってみたいと思った」が 27.3%だった。「20 歳になったとき、たばこを吸ってみたいと思わなかった」という回答は、59.7%となっていた（図 7）。現在の 18 歳・19 歳よりも、吸ってみたいという割合が多く、思わない割合が少ない結果であった。

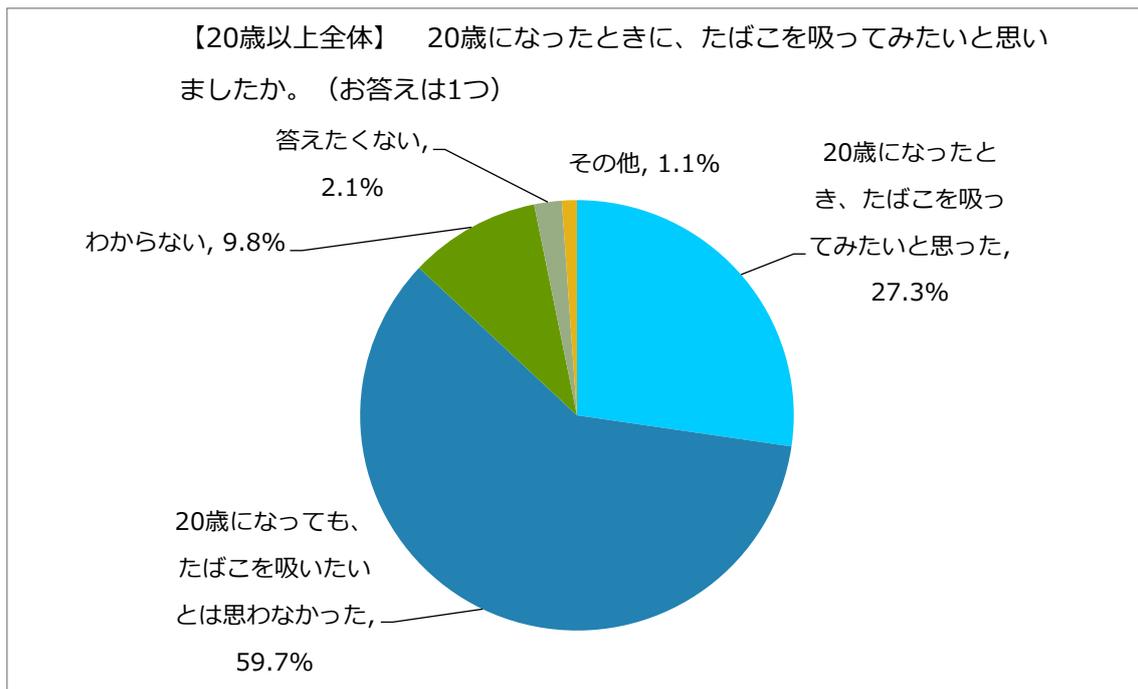


図 7 【20 歳以上全体】20 歳になったときに、たばこを吸ってみたいと思ったか（ウエイトバック）

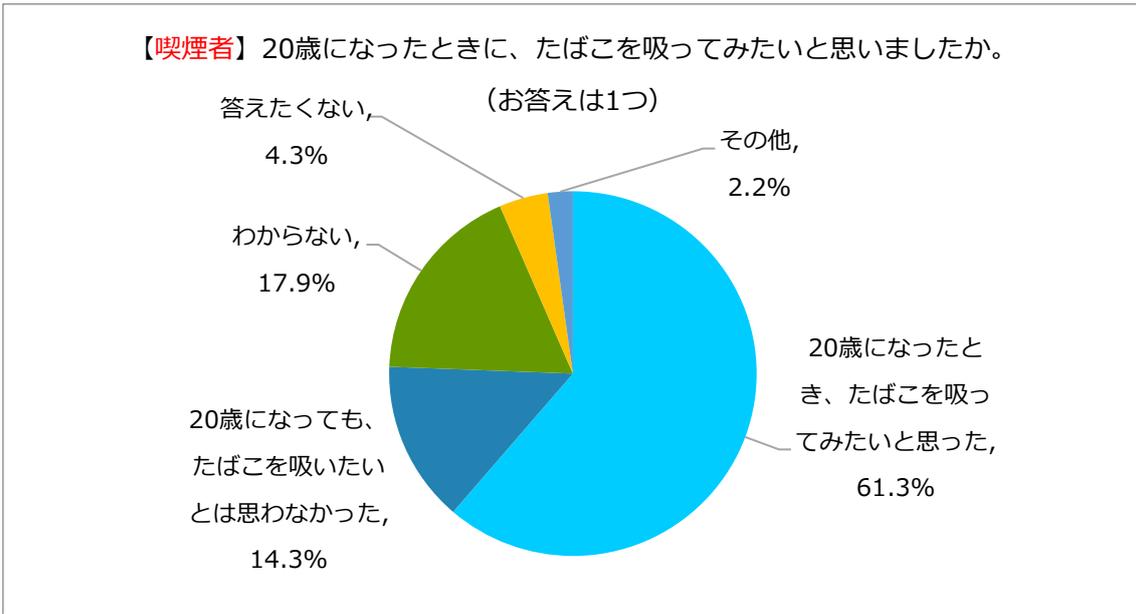


図 8 【20 歳以上喫煙者】20 歳になったときに、たばこを吸ってみたいと思ったか

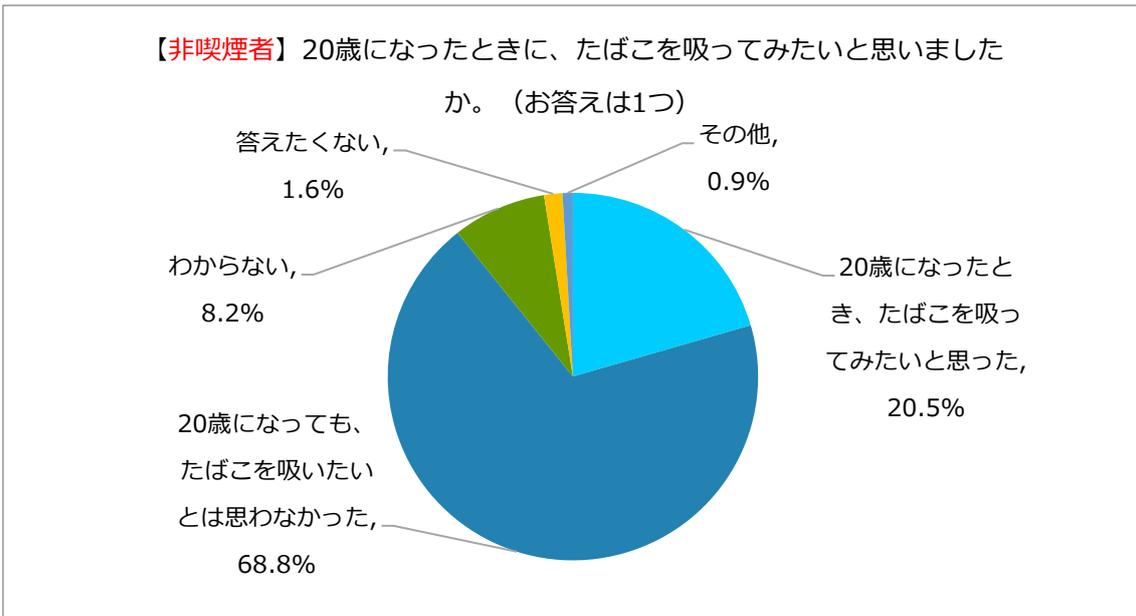


図 9 【20 歳以上非喫煙者】20 歳になったときに、たばこを吸ってみたいと思ったか

また、20 歳になったときに、たばこを吸ってみたいと思ったかについて、喫煙別に比較した。  
喫煙者では「20 歳になったときに、たばこを吸ってみたいと思った」が 61.3%と大部分を占め、「20 歳になっても、たばこを吸いたいとは思わなかった」は 14.3%となった（図 8）。  
一方、非喫煙者において「20 歳になったとき、たばこを吸ってみたいと思った」は 20.5%にとどまり、「20 歳になっても、たばこを吸いたいとは思わなかった」が 68.8%と大部分を占める結果となった（図 9）。

「20 歳になったとき、たばこを吸ってみたいと思った」と答えた方を対象に、たばこを吸ってみたいと思ったきっかけを質問した。

「家族がたばこを吸っていて、たばこが身近にあったから」を選択した回答が最も多く、52.0%であった。続いて、「友人や知人にすすめられたから」が 37.3%、「たばこを吸っている人を見て、真似をしたいと思ったから」が 26.4%、「テレビドラマや映画で役者が喫煙するシーンを見て格好良いと思ったから」が 22.8%の順となっていた。

一方で、「20 歳になって得られる権利を行使したいから」は 12.6%、「たばこの広告を見て、たばこに興味や関心を持っていたから」は 11.5%と、回答割合はそれほど高くなかった。

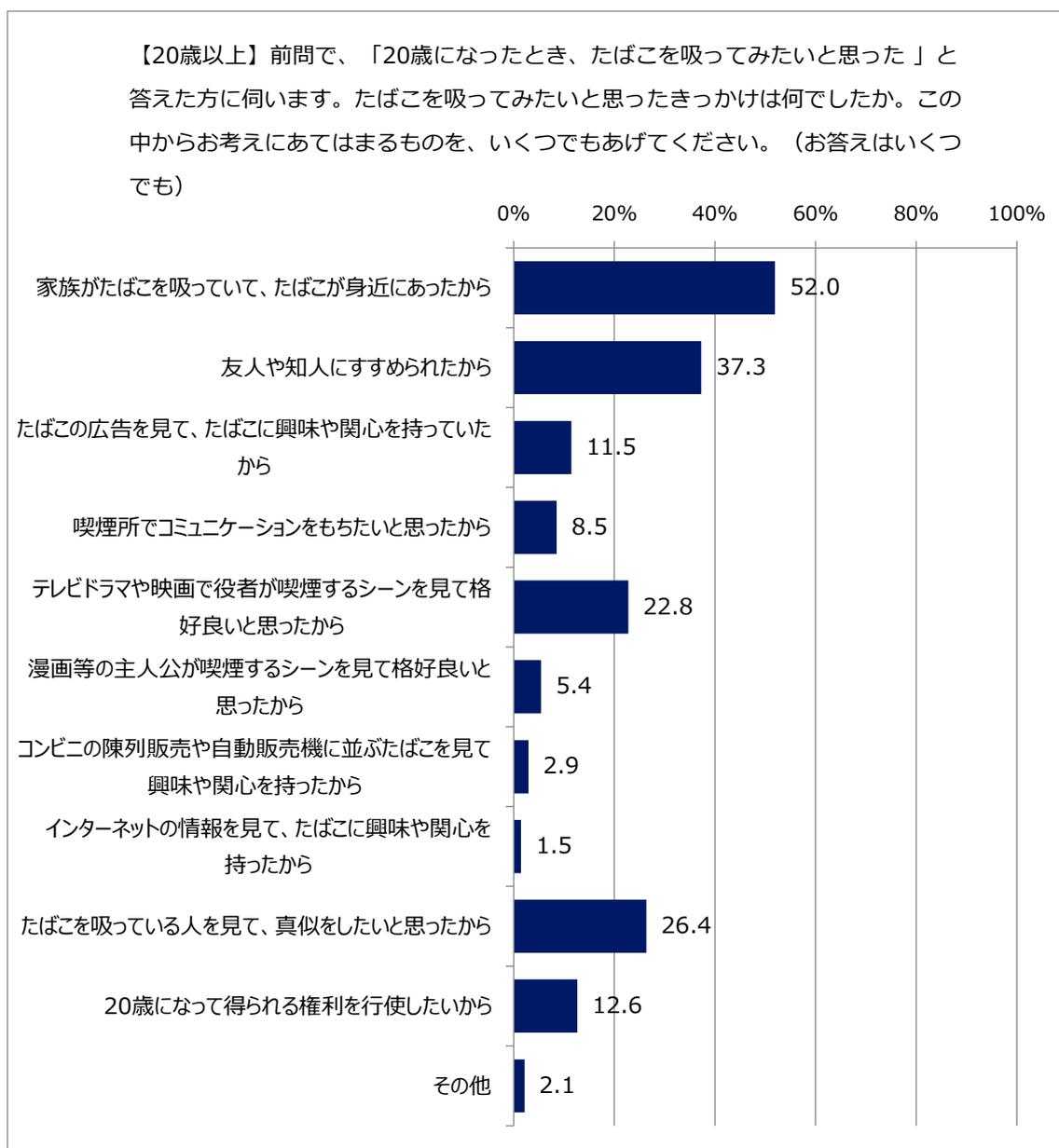


図 10 【20 歳以上全体】20 歳になったとき、たばこを吸ってみたいと思ったきっかけ（ウエイトバック）

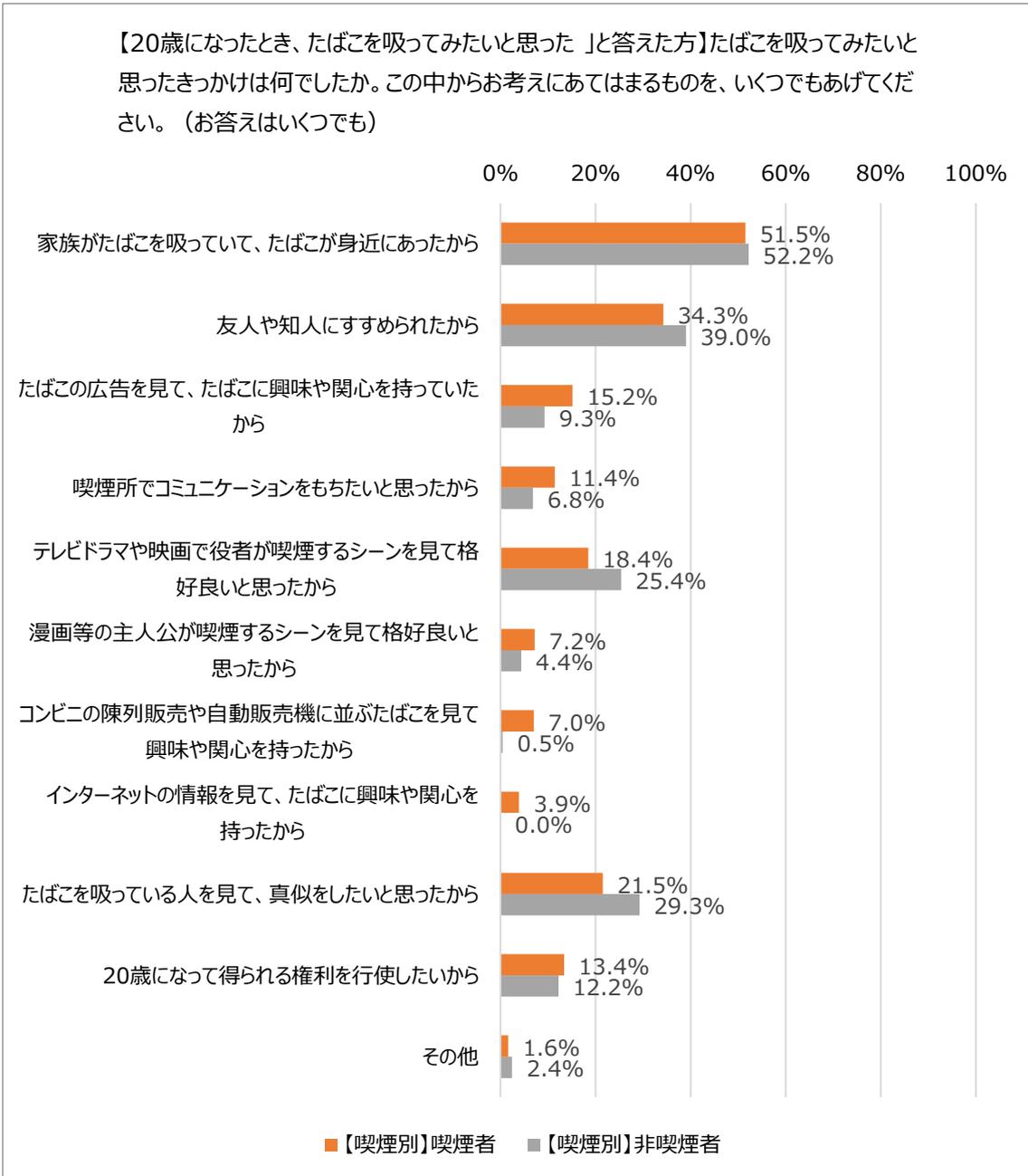


図 11 【喫煙別】20 歳になったとき、たばこを吸ってみたいと思ったきっかけ

喫煙者と非喫煙者で比較すると、「テレビドラマや映画で役者が喫煙するシーンを見て格好良いと思ったから」や「たばこを吸っている人を見て、真似をしたと思ったから」と回答した割合が非喫煙者で多く、逆に「たばこの広告を見て、たばこに関心や興味を持っていたから」、「コンビニの陳列販売や自動販売機に並ぶたばこを見て興味や関心を持ったから」、「インターネットの情報を見て、たばこに興味や関心を持ったから」については喫煙者で多い傾向が見られた（図 11）。

### (3) 非喫煙者にたばこをすすめたいかについて

周りの非喫煙者に、たばこをすすめたいかを質問した。

20歳以上全体では「積極的に、たばこをすすめたい」が1.2%、「どちらかという、たばこをすすめたい」が1.9%、合わせて3.1%であった(図12)。反対に、「決して、たばこをすすめたくない」は75.2%、「どちらかという、たばこをすすめたくない」は11.6%、合わせて86.8%に達していた。

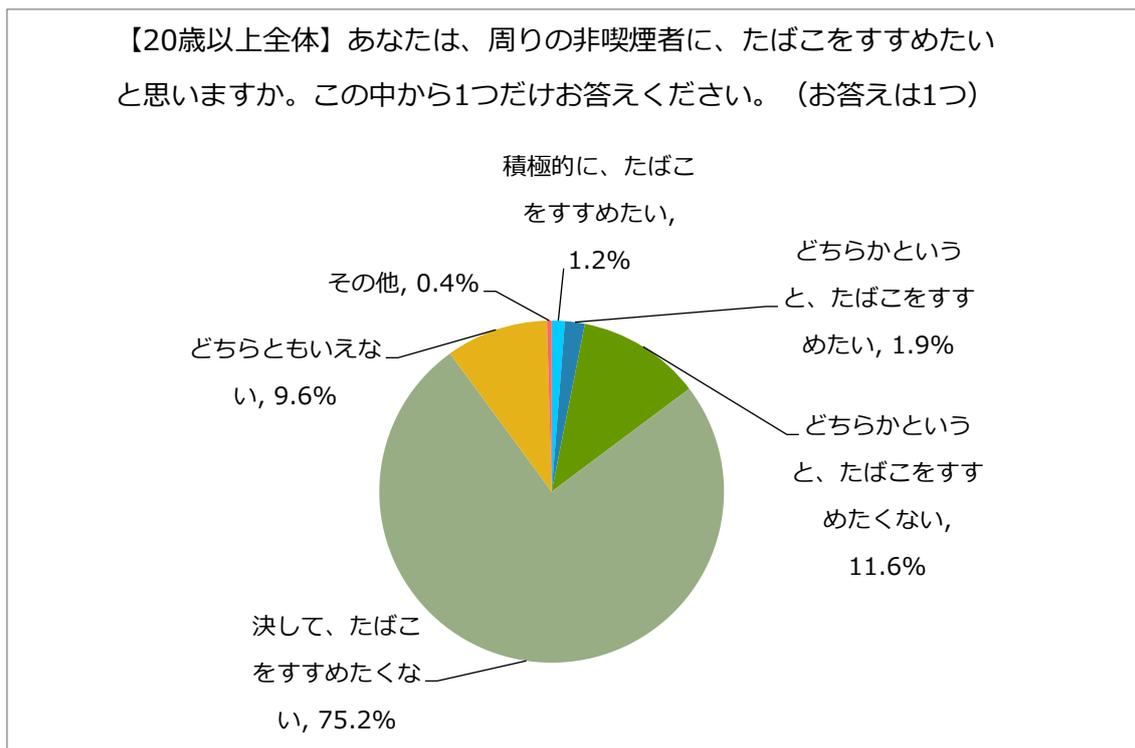


図12 【20歳以上全体】周りの非喫煙者に、たばこをすすめたいか (ウエイトバック)

喫煙者では「積極的に、たばこをすすめたい」が4.4%、「どちらかという、たばこをすすめたい」が5.7%、合わせて10.1%であった(図13)。反対に、「決して、たばこをすすめたくない」は39.9%、「どちらかという、たばこをすすめたくない」は27.3%、合わせて67.2%に達していた。

非喫煙者では、「積極的に、たばこをすすめたい」と「どちらかという、たばこをすすめたい」を合わせても2%に満たず、「決して、たばこをすすめたくない」が82.2%と大多数となっていた(図14)。

【喫煙者】あなたは、周りの非喫煙者に、たばこをすすめたいと思いますか。この中から1つだけお答えください。（お答えは1つ）  
 (N=1,000)

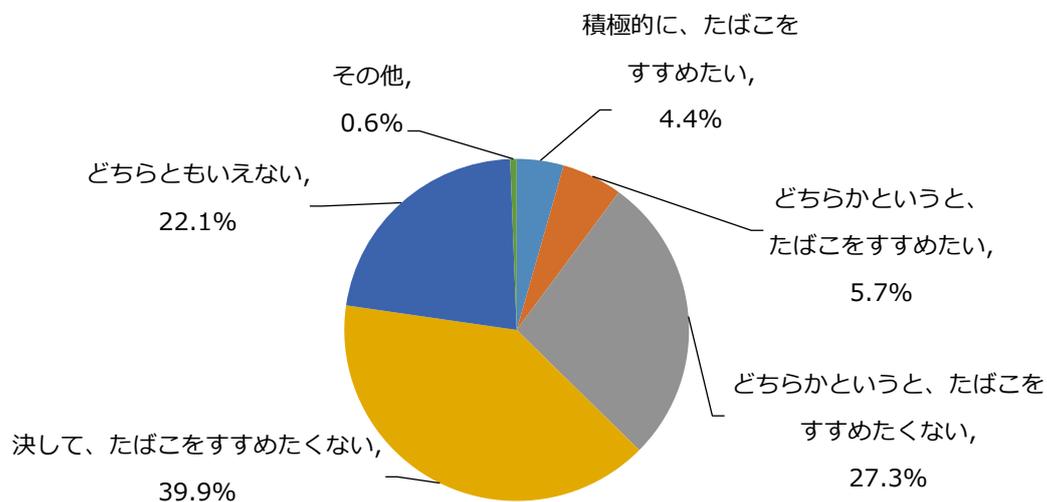


図 13 【喫煙者】周りの非喫煙者に、たばこをすすめたいと思うか

【非喫煙者】あなたは、周りの非喫煙者に、たばこをすすめたいと思いますか。この中から1つだけお答えください。（お答えは1つ）  
 (N=1,040)

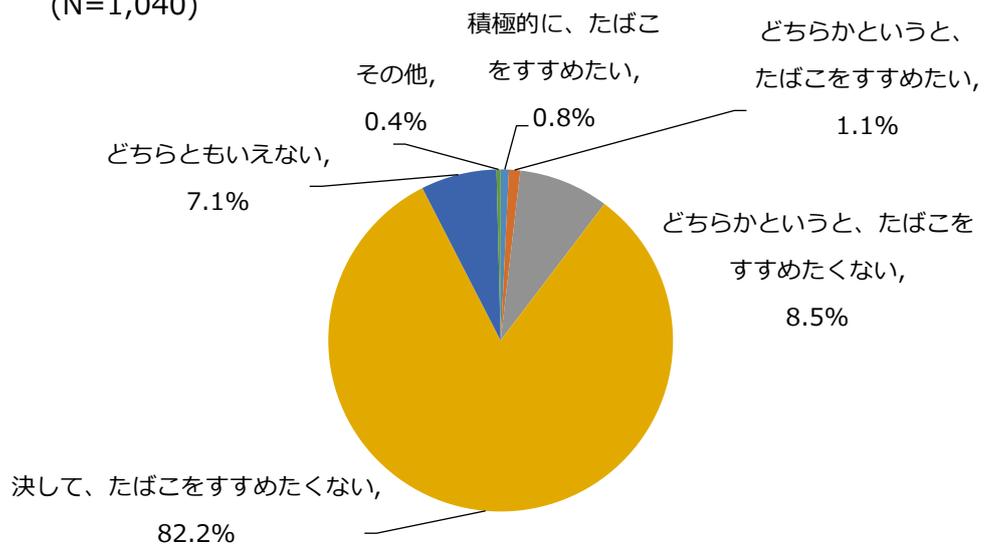


図 14 【非喫煙者】周りの非喫煙者に、たばこをすすめたいと思うか

周りの喫煙者に、禁煙するように働きかけたいと思うかについては、20 歳以上全体では、「積極的に、禁煙することをすすめたい」が 33.8%、「どちらかという、禁煙をすすめたい」が 27.2%となり、あわせて 61.0%が禁煙を働きかけたいと思っていることを示していた（図 15）。

「決して、禁煙をすすめたくない」は 9.6%、「どちらかという、禁煙をすすめたくない」は 6.7%と、いずれも低い回答割合となっていた。

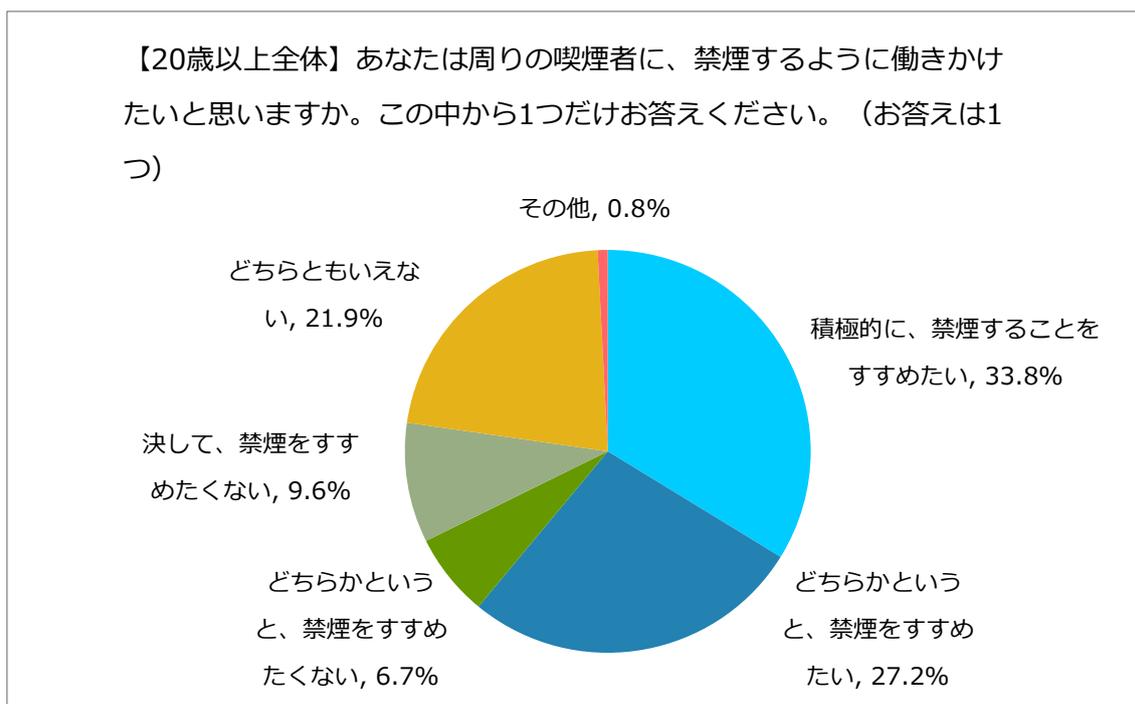


図 15 【20 歳以上全体】周りの喫煙者に、禁煙するように働きかけたいと思うか（ウエイトバック）

#### (4) 今後のたばこ対策について

今後のたばこ対策をどのように進めるべきか質問したところ、20歳以上全体では、「全面禁止によるたばこのない社会の実現を目指すべきである」が27.9%、「たばこや喫煙を減らすように、課税や規制の強化を推進すべきである」が34.2%と、あわせて62.1%となっていた。国民全体で見れば、今後のたばこ対策として規制の強化を進めるべきと考えている人が6割を超える結果となっていた。反対に、「個人の判断にゆだね、課税や規制は緩めるべき」は11.5%、「課税や規制はなくすべきである」は6.7%といずれも少ない結果であった(図16)。

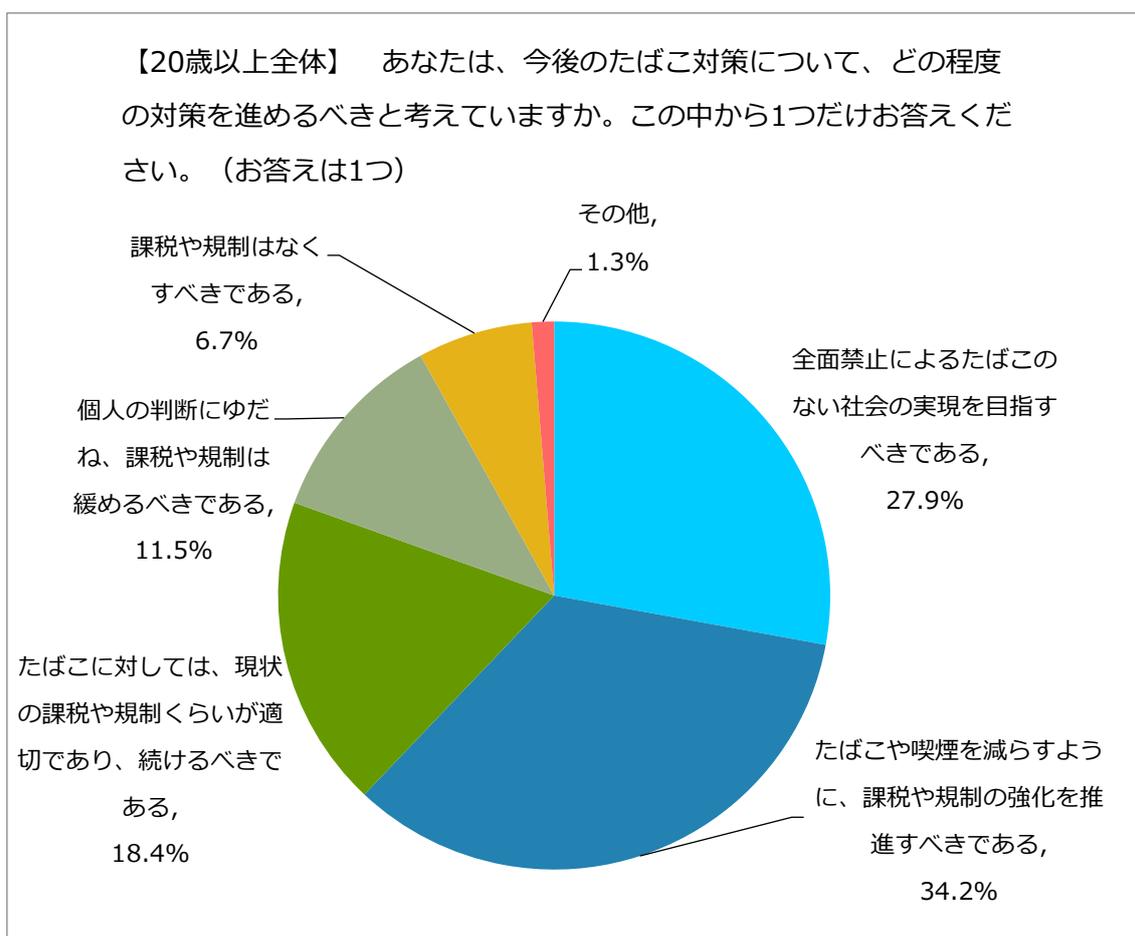


図16 【20歳以上全体】今後のたばこ対策について(ウエイトバック)

喫煙者、非喫煙者それぞれで見ると、喫煙者では課税や規制について意見がわかれる結果となっていた。全面禁止を目指すべきという意見も1割強(11.8%)あった(図17)

一方、非喫煙者では、「たばこのない社会の実現を目指すべき」が31.0%、「たばこや喫煙を減らすように、課税や規制の強化を推進すべきである」が38.1%と、あわせて約7割(69.1%)あった(図18)。

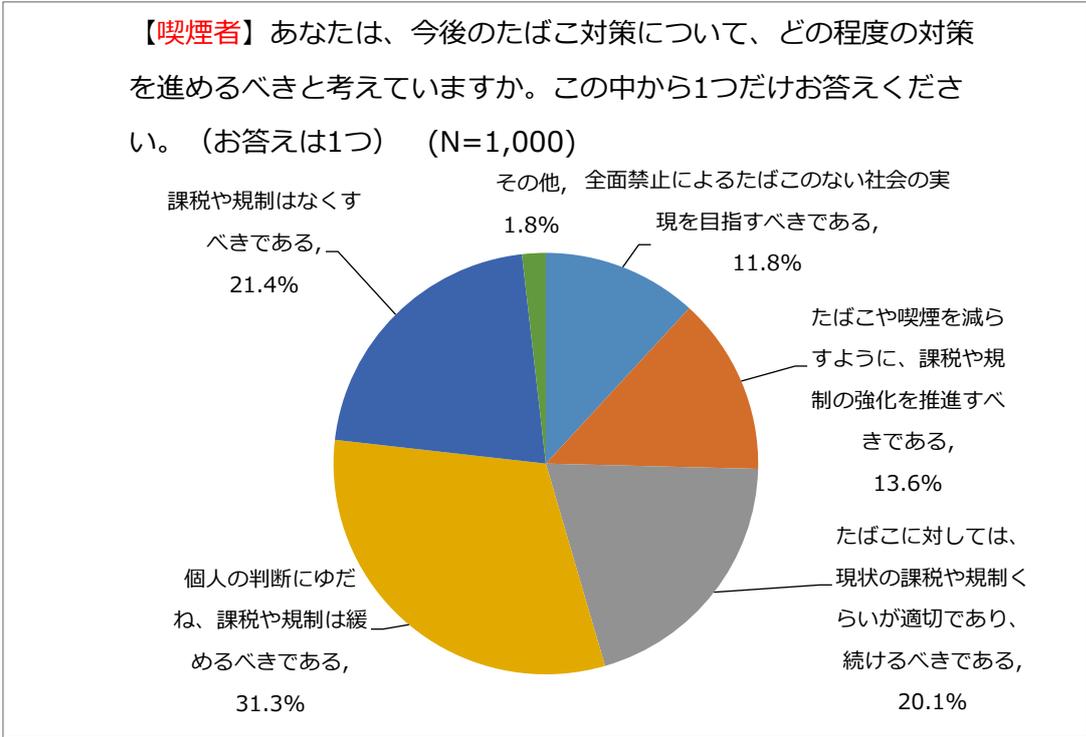


図 17 【喫煙者】今後のたばこ対策について

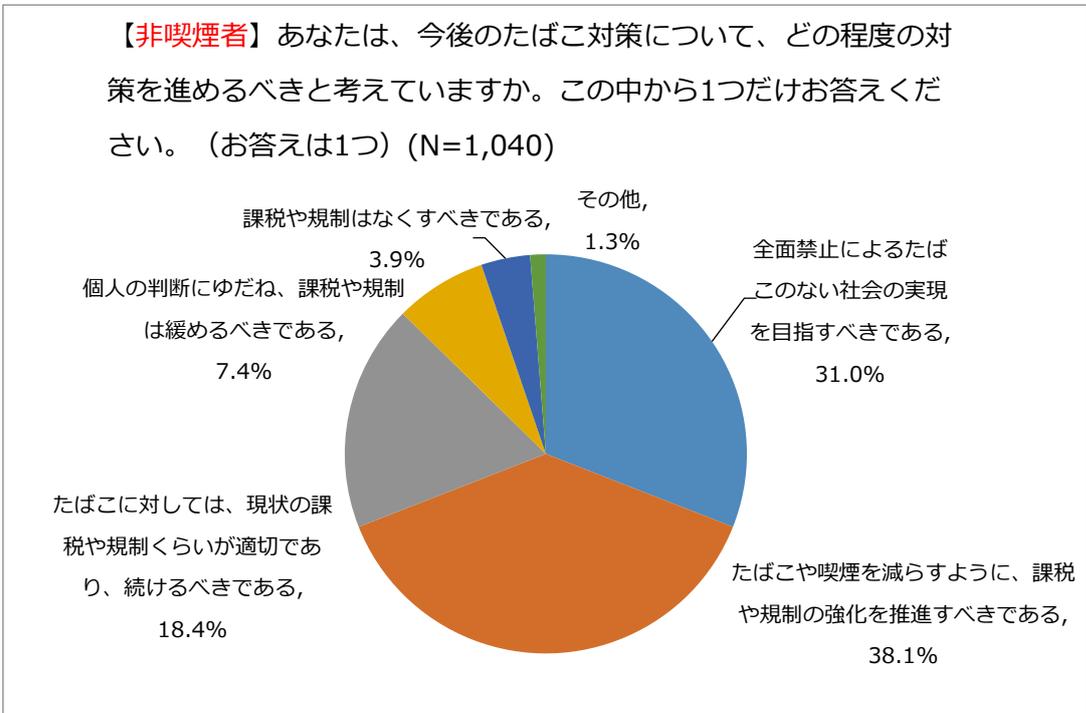


図 18 【非喫煙者】今後のたばこ対策について

### (5) 周りのたばこの煙の不快感

周りの人のたばこの煙について、20歳以上全体では、「不快に思う」という回答が半数以上の55.6%に達していた。「どちらかといえば不快に思う」26.1%とあわせると、8割以上（81.7%）の人がたばこの煙を不快なものと感じている実態がうかがえる（図19）。

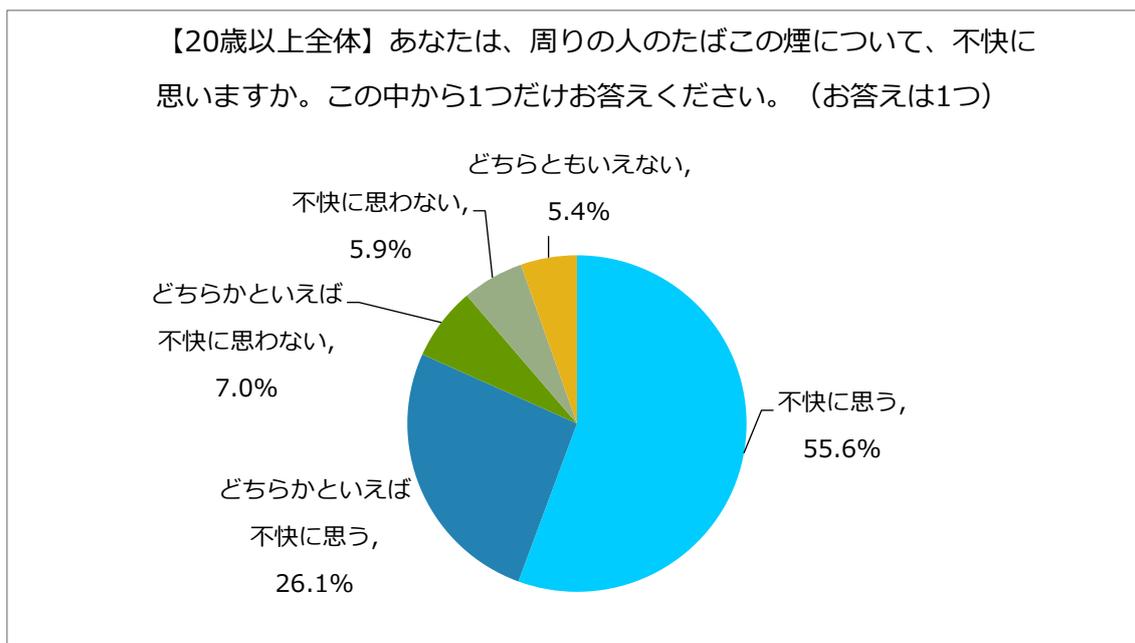


図19 【20歳以上全体】周りの人のたばこの煙について（ウエイトバック）

喫煙者でも、周りの人のたばこの煙を「不快に思う」が16.2%、「どちらかといえば不快に思う」が32.2%あり、あわせて約半数（48.4%）の人が自身が喫煙するにもかかわらず、他人のたばこの煙に対しては否定的に感じていることがうかがえる結果となっていた（図20）。

これが非喫煙者では、「不快に思う」が63.3%、「どちらかといえば不快に思う」24.9%、あわせて約9割（88.2%）と圧倒的な認識となっていた（図21）。さらに非喫煙者では、周りの人のたばこの煙を不快に思わないという人は、「どちらかといえば不快に思わない」を含めても1割に満たないことがわかる。

【喫煙者】あなたは、周りの人のたばこの煙について、不快に思われますか。この中から1つだけお答えください。（お答えは1つ）  
 (N=1,000)

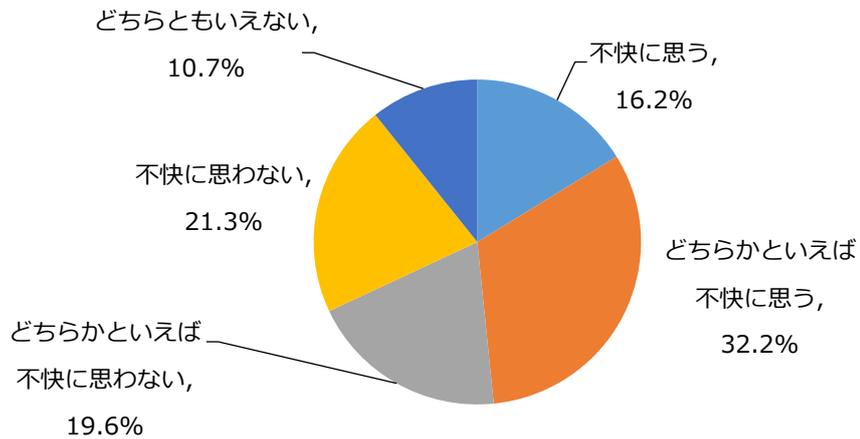


図 20 【喫煙者】周りの人のたばこの煙について

【非喫煙者】あなたは、周りの人のたばこの煙について、不快に思われますか。この中から1つだけお答えください。（お答えは1つ）  
 (N=1,040)

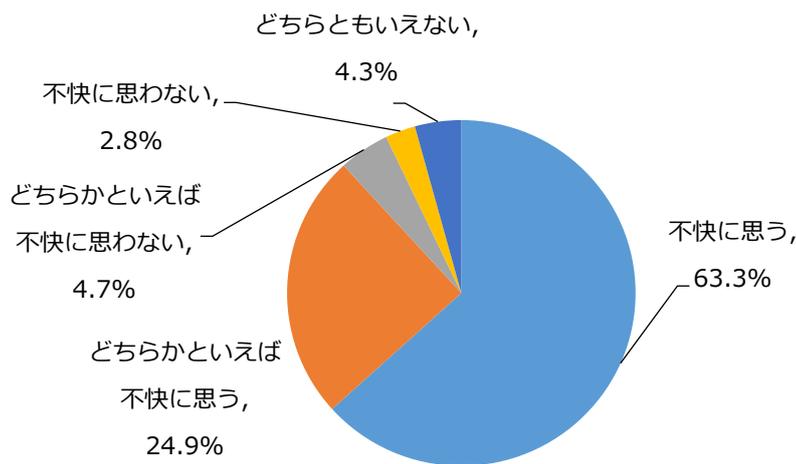


図 21 【非喫煙者】周りの人のたばこの煙について

## (6) 今後の受動喫煙対策

公共空間の受動喫煙対策について、今後どの程度の対策を進めるべきか質問した。

20歳以上全体では、「受動喫煙のない社会をめざし、公共空間での喫煙を一律に禁止すべきである」という回答が最も多く、41.4%となっていた。続いて、「受動喫煙を減らすように、公共空間の喫煙に対する規制を強化すべきである」が27.0%であった（図22）。

「現状の規制が適切であり、続けるべきである」は16.6%、「喫煙者の気配りや配慮にゆだね、公共空間の喫煙に対する規制は緩めるべきである」は6.3%、「喫煙はあくまで個人の自由であり、公共空間の規制はなくすべきである」は7.8%だった。改正健康増進法が完全施行となって2年であるが、一律の禁止を含めて規制の強化を今後推進すべきである意見が多い結果となっていた。

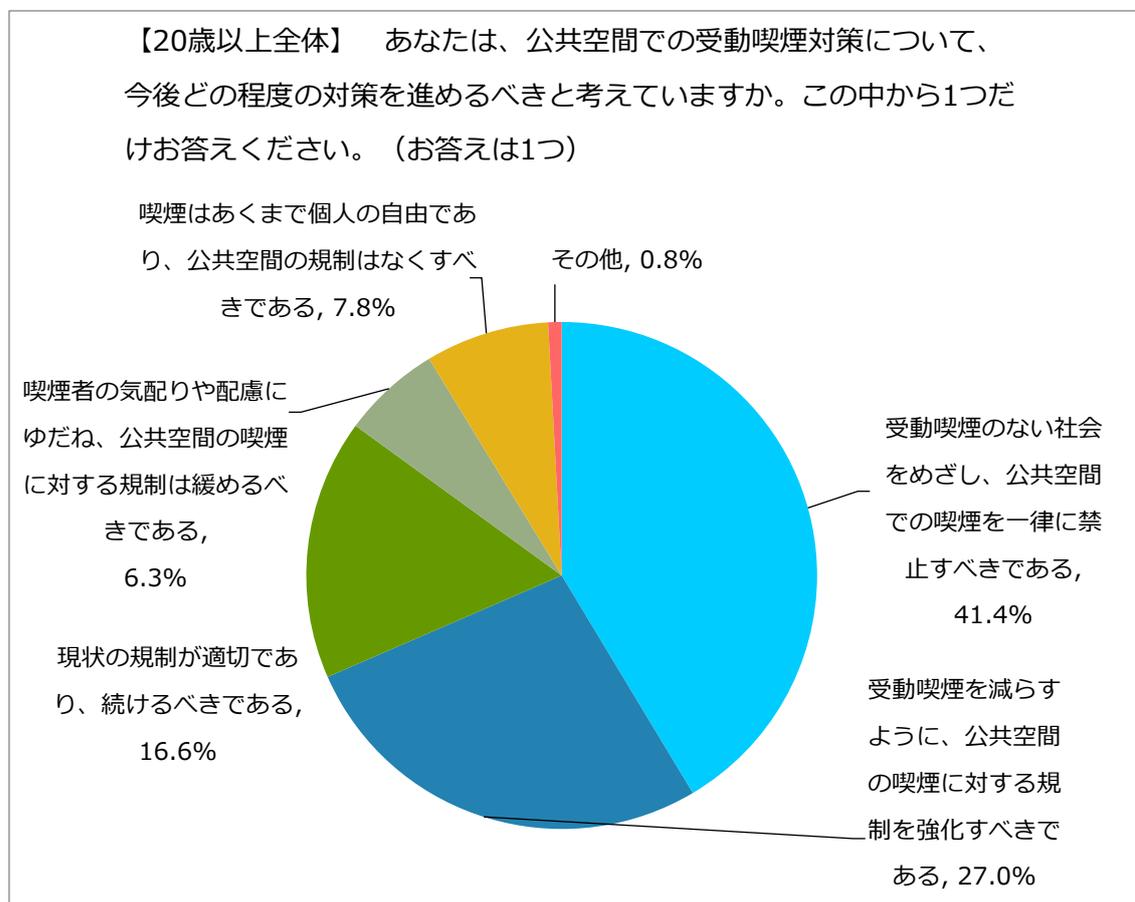


図22 【20歳以上全体】公共空間での受動喫煙対策について（ウエイトバック）

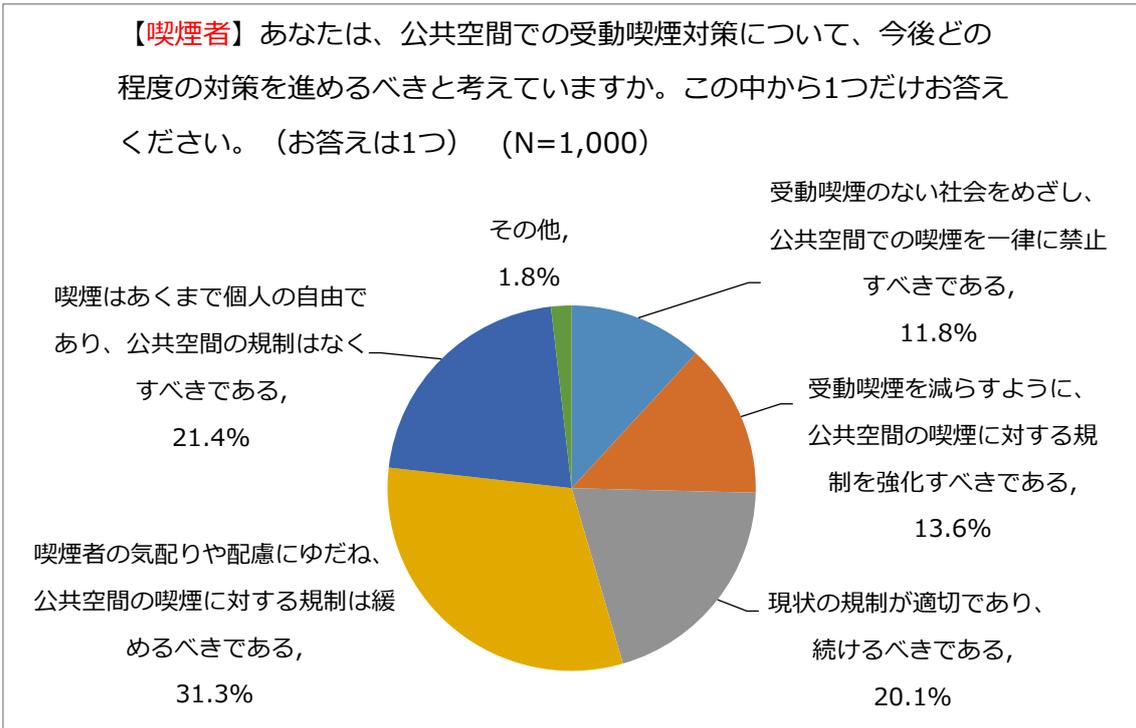


図 23 【喫煙者】公共空間での受動喫煙対策について

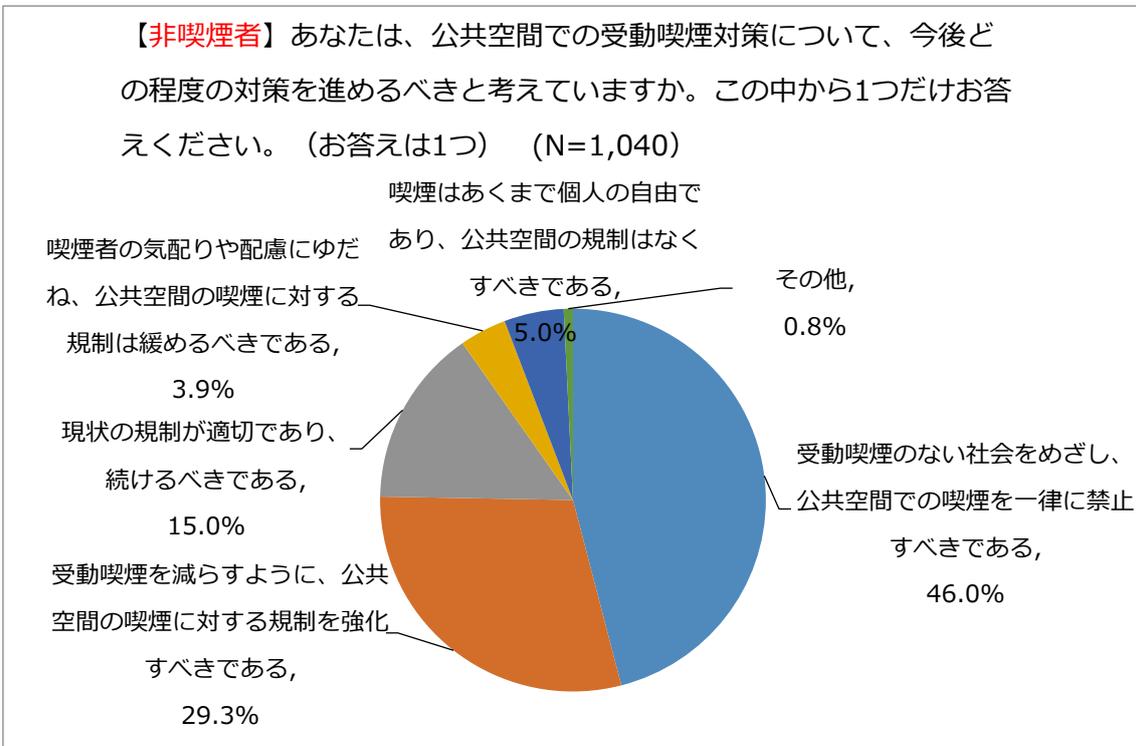


図 24 【非喫煙者】公共空間での受動喫煙対策について

喫煙者では、「喫煙者の気配りや配慮にゆだね、公共空間の喫煙に対する規制は緩めるべきである」という回答が最も多く 31.3%、次に「喫煙はあくまで個人の自由であり、公共空間の規制はなくすべきである」が 21.4%と、この二つで過半数となっていた（図 23）。その一方で、「受動喫煙のない社会をめざし、公共空間での喫煙を一律に禁止すべきである」が 11.8%、「受動喫煙を減らすように、公共空間の喫煙に対する規制を強化すべきである」も 13.6%あった。

非喫煙者では、「受動喫煙のない社会をめざし、公共空間での喫煙を一律に禁止すべきである」と回答した人の割合が半数近くの 46.0%となっており、続いて、「受動喫煙を減らすように、公共空間の喫煙に対する規制を強化すべきである」が 29.3%となっていた（図 2）。この二つの回答割合を合わせると 75.3%を越えており、禁止や規制の強化をさらに推進することを求める意見が強いことが示された。「喫煙者の気配りや配慮にゆだね、公共空間の喫煙に対する規制は緩めるべきである」、「喫煙はあくまで個人の自由であり、公共空間の規制はなくすべきである」という回答は、あわせても 1 割に満たない結果となっていた。

#### （7）まとめ

- 本調査は、国民の意識を把握することを目的として、2022 年 4 月にインターネット調査により実施し、2,040 名（20 歳以上の喫煙者 1,000 名、非喫煙者 1,000 名、18 歳・19 歳 40 名）の回答を得た。
- 喫煙開始年齢と健康リスクについての認知度・理解度は、全ての項目で半数（50%）に満たず、健康上の悪影響についての普及啓発が重要な課題とわかる。
- 20 歳になったときに、たばこを吸ってみたいと思った割合は、喫煙者では 61.3%、非喫煙者では 20.5%と大きな差がみられました。たばこを吸ってみたいと思う人を減らすため、普及啓発活動が重要であると考えられる。

20 歳になったときに、たばこを吸ってみたいと思ったきっかけは、「家族がたばこを吸っていて、たばこが身近にあったから」を選択した回答が最も多く、52.0%であった。続いて、「友人や知人にすすめられたから」が 37.3%、「たばこを吸っている人を見て、真似をしたいと思ったから」が 26.4%、「テレビドラマや映画で役者が喫煙するシーンを見て格好良いと思ったから」が 22.8%の順となっていた。この結果から、今後、若年層の喫煙開始を防ぎ、喫煙率を下げっていくためには、子どもの周りでは、たばこを吸わない、たばこを見せないことが重要と考えられる。

- 周りの非喫煙者にたばこをすすめていかについて、20 歳以上全体では「積極的に、たばこをすすめてい」が 1.2%、「どちらかというと、たばこをすすめてい」が 1.9%、あわせてもわずか 3.1%であった。反

対に、「決して、たばこをすすめたくない」は 75.2%、「どちらかという、たばこをすすめたくない」は 11.6%、あわせて 86.8%に達していた。

喫煙者でも「積極的に、たばこをすすめたい」が 4.4%、「どちらかという、たばこをすすめたい」が 5.7%、あわせて 10.1%に過ぎず、「決して、たばこをすすめたくない」は 39.9%、「どちらかという、たばこをすすめたくない」は 27.3%、あわせて 67.2%に達していた。

- 周りの喫煙者に、禁煙するように働きかけたいと思うかについて、20 歳以上全体では、「積極的に、禁煙することをすすめたい」が 33.8%、「どちらかという、禁煙をすすめたい」が 27.2%となり、あわせて 61.0%が禁煙を働きかけたいと思っていることを示していた。
- 今後のたばこ対策をどのように進めるべきかについて、20 歳以上全体では、「全面禁止によるたばこのない社会の実現を目指すべきである」が 27.9%、「たばこや喫煙を減らすように、課税や規制の強化を推進すべきである」が 34.2%と、あわせて 62.1%となっていた。国民全体でみると、今後のたばこ対策として規制の強化を進めるべきと考えている人が 6 割を超える結果となっていた。
- 周りの人のたばこの煙について、20 歳以上全体では、8 割以上（81.7%）の人がたばこの煙を不快なものと感じていた。喫煙者でも、約 5 割（48.4%）あった。
- 公共空間での受動喫煙対策についての意向は、20 歳以上全体では、一律の禁止を含めて規制の強化を今後推進すべきである意見が多い結果となった。
- 公共空間での喫煙禁止や規制の推進は、たばこを吸う行為を見せないことにもなり、若年層がたばこをすってみたいというきっかけの減少にもつながると予想される。
- 今後はさらにこの調査を発展させ、以下のような調査研究を行うことで、喫煙開始を抑え、喫煙率を下げるため、具体的な政策の提言につなげることができると考える。
  - 喫煙開始年齢と健康リスクについての普及啓発活動の推進および効果検証
  - 受動喫煙対策による喫煙開始の抑制や喫煙率低下へのインパクト評価
  - 各種たばこ対策による喫煙開始の抑制や喫煙率低下へのインパクト評価
  - 喫煙者、とりわけ若年層の喫煙者への禁煙介入方法および効果の検討

## 4. 参考資料

### (1) WHO2022 年の世界禁煙デー・テーマ

たばこ、環境への脅威

Tobacco: Threat to our environment.

たばこの栽培から生産、流通、過剰な消費に至るまで、たばこが環境に与える影響について、一般の人々の意識を高め、喫煙者にはたばこをやめるための新たな理由を与えるもの

たばこ産業は、年間 84 メガトンの二酸化炭素換算の温室効果ガスを排出して気候変動への耐性を低下させ、資源を浪費し、生態系に害を与えている。たばこの栽培のために、毎年約 350 万ヘクタールの土地が破壊され、特に発展途上国において森林破壊の原因となっている。たばこ農園のための森林破壊は、土壌の劣化を促進し、「歩留まりの低下」、すなわち土地が他の作物や植物の成長を支える能力の低下を招く。

国連が 2015 年に採択した SDGs (Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標) は、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際的な目標である。SDGs の目標 3 では、「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」となっており、その別枠として 3A 「たばこ規制枠組み条約の実施強化を目指す」目標項目も含まれている。



# POISONING OUR PLANET

## #TobaccoExposed

Throughout its lifecycle, tobacco pollutes the planet and damages the health of all people.

たばこはそのライフサイクルを通じて地球を汚染し、人々の健康に害を与えている  
<https://www.who.int/campaigns/world-no-tobacco-day/2022>



SDGs 目標 3： すべての人に健康と福祉を

3 A すべての国々において、たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約（WHO FCTC）の実施を強化する

## (2) 厚生労働省 禁煙週間のテーマ

たばこの健康影響を知ろう！～若者への健康影響について～

令和4年4月1日から成年年齢が引き下げられた一方で、喫煙に関する年齢制限については引き続き20歳以上とされていることや喫煙開始年齢の早さと全死因死亡に十分な因果関係があることが報告されていること等から、喫煙開始年齢と健康影響の関係について、特に若年者への普及啓発が重要となっている。

本件に関するお問い合わせ先

国立研究開発法人 国立がん研究センター  
〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1  
がん対策情報センター がん対策研究所  
がん情報提供部 たばこ政策情報室  
TEL : 03-3542-2511 (代表)  
E-mail : tobacco @ ncc.go.jp

企画戦略局 広報企画室  
TEL : 03-3542-2511 (代表)  
FAX : 03-3542-2545  
E-mail : ncc-admin @ncc.go.jp